

～和と洋のコラボレーション～

「システィーナ歌舞伎」

新作歌舞伎「切支丹寺異聞 伽羅沙」

2009年9月5日(土)・6日(日)

企画の意図

大塚国際美術館(館長:大塚明彦、所在地:徳島県鳴門市)は、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂天井画および正面祭壇壁画を原寸大に立体再現した「システィーナ・ホール」を舞台に、9月5・6日の両日、新作歌舞伎「切支丹寺異聞 伽羅沙」を「システィーナ歌舞伎」と銘打って上演します。西洋美術を育む礼拝堂の「洋」と、伝統的な歌舞伎の「和」とのコラボレーションは、画期的な試みとして、各方面から注目されております。

今般、初演される「切支丹寺異聞 伽羅沙」は、松竹株式会社様の製作により、梅若六郎の新作能「伽羅沙」をモチーフに、荘厳な雰囲気を持つ「システィーナ・ホール」の豪華な空間に合わせて水口一夫の脚本・演出、藤間勘十郎の振り付けにより歌舞伎化したものです。悲運の細川ガラシャは実力派の女方・上村吉弥が、ガラシャの夫・細川忠興は若手花形の坂東薪車がそれぞれ演じます。

巨匠ミケランジェロの祭壇壁画を背景にした「システィーナ・ホール」の舞台は、長唄、囃子、琴など日本の伝統音楽とオルガンや聖歌隊による西洋の教会音楽が融合し、観客席はまるで教会のミサの現場にいるような臨場感に包まれるでしょう。荘厳な礼拝堂の雰囲気を効果的に使う構成は、大塚国際美術館ならではの企画で、県内外の歌舞伎ファンはもとより美術ファンにも贅沢なひとときを過ごしていただけるものと考えています。

今回の企画は、昨秋発足した「NPO法人 とくしま傾く会」(理事長:河野稔治、会員250人)と徳島県に全面的な協力を得ました。同会は歌舞伎公演の県内招致をはじめ全国の主な劇場へ観劇ツアーに出掛けるなど、歌舞伎文化を地元徳島で根付かせようと地道な活動を続けています。その先頭に立つ河野理事長は、県下各地のカルチャーセンターで歌舞伎講座を担当。公演に先立つ7月25日に「システィーナ歌舞伎の楽しみ方」と題してナビゲーター役を務めました。

日 時

9月5日(土) 昼の部 13:30 開演(開場 13:00) / 夜の部 17:30 開演(開場 17:00)

9月6日(日) 昼の部 13:30 開演(開場 13:00)

演 目

歌舞伎その美の世界

【ご案内】坂東新車

【会 場】B3F センターホール

【内 容】見どころや音楽、歴史など歌舞伎のイロハを楽しく、分かりやすく解説する歌舞伎入門です。

また、歌舞伎を身近に感じていただけるよう、歌舞伎衣裳を展示します。

きりしたんでらいぶん ガラシャ 切支丹寺異聞 伽羅沙

細川ガラシャ：上村吉弥

細川忠興：坂東新車

【会 場】B3F システィーナ・ホール

【内 容】

原案 梅若六郎・作 山本東次郎による新作能を、「システィーナ歌舞伎」のために歌舞伎に移した新作舞踊。

別紙をご参照ください。

入場料

A席 6,500円 / B席 5,500円 全席指定 指定席は「システィーナ・ホール」のみ
(美術館入館料・観劇料・消費税等含む)

関連イベントについて

出演者を囲む夕べ

日時：9月5日(土) 19:30 から

会場：大塚国際美術館 B2F カフェ・ド・ジヴェルニー

会費：2,000円

定員：200名(事前申込制・先着順)

締切：8月22日(土)

ご参考

プロフィール

かみむらき ちや
【上村吉弥 六代目 屋号・美吉屋】

和歌山県出身

1973年 8月 片岡我當に入門

1987年 11月 名題披露

1993年 11月 京都・南座で六代目吉弥襲名



品のある面差しと実力で上方歌舞伎になくてはならない女方のひとり。門閥外の出身ながら、天性の美貌と精進で由緒ある名跡を得た。

いまや恒例となっている4月の南座の歌舞伎鑑賞教室には第1回から連続出演し、今年17回目を迎えた。6月には師・片岡我當一門で巡業する鑑賞教室に参加し、常に重要な役どころを的確に演じている。

若女房から老け役まで多彩に演じ分ける手腕を買われ、近年活躍の場をさらに広げ、2007年3月には、パリ・オペラ座公演に参加。新歌舞伎十八番の内「紅葉狩」の局田毎で見せた見事な演技は高い評価を受けた。また、同年11月、国立劇場「摂州合邦辻通し」で見せたおとくの卓越した演技は記憶に新しい(国立劇場奨励賞)。舞踊も巧みである。

徳島へは、2007年9月(美馬市での歌舞伎ワークショップ「傾いて魅せよう!」)、2008年6月(歌舞伎鑑賞教室)、2009年6月(同)に続いての来演。

ばんどうしんしゃ
【坂東薪車 四代目 屋号・音羽屋】

千葉県出身

五代目坂東竹三郎の芸養子

1998年 9月 大阪・松竹座で竹志郎を名乗って初舞台

2005年 4月 大阪・松竹座で四代目薪車襲名



上方歌舞伎の若き立役のホープ。2007年7月、大阪松竹座では急な代役(義経千本桜・渡海屋の源九郎判官義経)にもかかわらず、堂々とした演技で高い評価を得た。熱心な役づくりには目を見張らされる。

関東の出身だが、上方の雰囲気や体得するため普段から大阪弁を使うよう心掛け、大阪の生活感を身につける努力を怠らない。2008年11月、藤山直美の相手役で松竹新喜劇の名作『銀のかんざし』に挑み、上方和事の二枚目に可能性を感じさせた。

徳島へは、2008年6月の歌舞伎鑑賞教室で初お目見え。

細川ガラシャについて

細川ガラシャ（1563-1600）は、戦国末期の武将・細川忠興^{ただあき}夫人のことで、「本能寺の変」（1582）で信長に反逆した明智光秀の三女として知られています。また、日本最初の女性キリシタンの一人ともされます。“ガラシャ”は彼女のカトリックの洗礼名で、“GRATIA（グラティア）＝神の恩寵”からきており、本名は「細川玉」といいます。ガラシャは「関ヶ原の戦い」（1600）の前夜、西軍・石田三成の人質となることを拒み、自らの意志により死を選びます。東軍・家康勢に従っていた忠興は戦勝の後、大阪に帰ってキリシタンによる壮麗な葬儀を営み、ガラシャの38年の生涯を手厚く弔いました。

「システィーナ礼拝堂」について

ミケランジェロ（1475-1564）

天井画：「天地創造」ほか

1508-12年 フレスコ / 3255×670 cm

壁画：「最後の審判」

1536-41年 フレスコ / 1463×1338 cm

システィーナ礼拝堂は教皇シクストゥス4世（在位1471-84）の命によって、1473年頃ヴァチカン宮殿内に建造が開始されたことからその名があります。天井までの高さが21mあり、幅13m、長さ40mの、礼拝堂としてはたいへん大きなものです。

時の教皇ユリウス2世（在位1503-13）は彫刻家として、建築家として、詩人として、さらに画家として優れた才能を発揮したミケランジェロ（1475-1564）に天井画を描くように依頼しました。彼は、1508年からわずか4年間で、旧約聖書『創世記』に基づき、天地創造から人類の誕生、そして人類の墮落と刑罰という神と人類との物語など、約1000平方メートルの天井に300人にも及ぶ人間像を描き上げました。

天井画完成からおよそ四半世紀後、ミケランジェロは再び同じ礼拝堂の正面の壁画に「最後の審判」（『新約聖書』）を描くこととなります。「最後の審判」とはキリスト教の考える世界の終末です。キリストが再び現れ、天使が死者を復活させ、人類は善人と悪人に分けられます。そして善人は天国へと救済され、悪人は地獄へ墮ちるとされています。伝統的な審判図が位階的で安定した構図をもつものに対し、ミケランジェロのそれは極めてユニークなものとなっています。ここでは、天使さえもが興奮し、驚き、動転しているのです。静かに世界の終末を迎えるのではなく、神の裁きの前で動乱し、反逆し、絶叫する人類が描かれています。

陶板名画について

大塚国際美術館で展示している原寸大の陶板名画とは、大塚グループの大塚オーミ陶業株が開発した陶製の板（セラミックボード）に原画の写真を忠実に転写し、細部に至るまで幾度もレタタッチを重ね、限りなくオリジナル作品に近づけることに成功した原寸大美術陶板のことです。最終仕上がりを考慮し、釉薬の決定、色分解、製版、転写などの各工程を経て、1300度の高温で焼成します。そのため、退色劣化することなく約2000年以上にわたってそのままの色と姿で残り、美術書や教科書と違い原画が持つ本来の美術的価値を真に味わうことができます。

大塚国際美術館とは

渦潮を臨み緑豊かな鳴門公園に位置する「大塚国際美術館」。古代壁画から世界 25 ヶ国 190 余の美術館が所蔵する現代絵画まで、1,000 点を超える世界の名画を特殊技術によって、原寸大の陶板で忠実に複製しています。約 4 km に及ぶ鑑賞ルートには、古代遺跡や礼拝堂を現地の空間そのままに再現した立体展示のほか、レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」、ゴッホ「ヒマワリ」、ピカソ「ゲルニカ」など、美術書などで一度は見たことがあるような名画を美術史の流れに沿って展示しています。

なかでも、ミケランジェロが描いた天井画と正面祭壇壁画「最後の審判」とともに立体再現した「システーナ・ホール」の迫力は必見です。

大塚国際美術館

住所：徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

TEL：088-687-3737

FAX：088-687-1117

<http://www.o-museum.or.jp/>

開館時間：9 時 30 分から 17 時まで

(入館券の販売は 16 時まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

正月明けに連続休館あり / 7・8 月無休

入館料：小・中・高生 520 円

大 学 生 2,100 円

一 般 3,150 円

*20 名以上の団体は 10%割引

アクセス

- ・鳴門北 I C から車で約 3 分
専用駐車場より無料シャトルバス運行
- ・高速バスにて(高速鳴門まで)
JR 大阪駅より約 2 時間 10 分 / JR 新神戸より約 1 時間 30 分
- ・路線バス「鳴門公園行」にて「大塚国際美術館前」下車
JR 徳島駅より約 55 分、JR 鳴門駅より約 20 分、
「高速鳴門バス停前」より約 15 分、「徳島空港口」バス停より約 25 分



環境展示：「システーナ・ホール」

《本件に関するお問い合わせ先》

大塚国際美術館 企画・広報部 坂本明子

TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117

e-mail：museum@otsukakj.co.jp